

◎議会報告

新体育館について

Q1 市民

・公共事業が増えると借金が増える。26年度は地方税が102億も集まったが、これが続くとは限らない。地方債残高が280億で、経常収支比率と財政力指数が毎年悪化していく中で、新体育館は、どのような考えで建設するのか。コンクリートの塊のような体育館を作るのか、木材を使ってきちんと建設するのか。ポプラ並木があって噴水があって公園があるような住宅環境を整えたほうが、将来的に人が帰ってくる。定住促進のためのモデルケースにしてはどうか。

A 平間副委員長

・確かに現在の経常収支比率と財政力指数は良くはないが、これ以上悪くならないようにしていくことが財政運営である。一方で、基金は増えてきていることは評価すべき。様々なことを総合的に考え、財政計画を作って計画的に進めていく。
・街づくりの関係については、様々な要素を含めて計画を作っているのでご理解いただきたい。

Q2 市民

・財政的な負担が障がい者に影響するようなことはないのか。また、新体育館については、障がい者に対応した設備を備えたものになるのか。

A 永田委員長

・総事業費28億2,200万円、このうち国の補助が1億8,500万。合併特例債は23億8,500万円、このうち7割が国から補填される。建設時に市が負担するお金は2億5,200万円となる。維持管理費は約6,800万円である。
・合併特例債の3割分を10年で返済していくので、市が負担する額は約10億円ぐらいになろうかと思う。
・市の貯金約32億が、新体育館建設により約23億円程度になってしまうが、借金も17億円程度減らしているの、なんとか大丈夫であろうとシュミレーションしている。
・新体育館は、子育てしやすいまちを目指すにあたり、若い人たちに希望を持ってもらう施設であり、バリアフリーも当然であり、障がい者のスポーツ大会も開催できる施設となるよう考えていく。